

第5回 近江八幡市第1次総合計画審議会 会議記録(要約)

1. 開会

事務局：

- ・ 本日は、お忙しい中ご出席を賜り、御礼申し上げます。ただ今から、「第5回近江八幡市第1次総合計画審議会」を開会する。本日の会議は、16時終了予定である。限られた時間ではあるが、みなさまの活発な御意見を願います。開会にあたり、総合計画審議会 会長よりごあいさつを頂戴する。

2. 挨拶

会長：

- ・ お忙しい所ご出席いただき御礼申し上げます。本日は第5回の審議会である。
- ・ 総合計画の案がまとまってくると、市民のみなさんの意見を聞くパブリックコメントを実施する手続きがある。審議会として、市民から意見を聴取する前段階のまとめをしないといけない時期になってきている。そういった意味で本日は非常に重要な山場であるので、よろしくご審議のほど願います。

事務局：

- ・ 欠席のご連絡をいただいているのは、重田委員、小川委員、加納委員、香川委員、八木委員、轟委員、浅田委員、角野委員、安倍委員、田口委員、南山委員。
- ・ 高木委員が少し遅れるとご連絡をいただいている。
(資料確認)
- ・ 議事に移る前に、前回までの経過と今後のスケジュールについて事務局より説明する。

事務局：

(資料6 前回審議会以降のスケジュール説明)

- ・ 第3回、第4回は部会に分かれて基本計画素案の内容についてご議論いただいた。みなさまからいただいたご意見は、資料3の左側、「審議会での指摘・ご意見」としてまとめた。
- ・ 第2回審議会から持ち越していた「将来都市像」については、結論に至らず、事務局にて再度提案することとなった。それを受けて、今回は臨時的に審議会を開催させていただいた。したがって、今回は、みなさまからのご意見を受けて修正した基本計画案に対するご検討と、基本構想案の「将来都市像」についてご検討いただく。
- ・ 今後のスケジュールとしては、各学区まちづくり協議会に対して、基本構想案及び基本計画案に対するアンケートとヒアリングを実施する。まちづくり協議会が現在更新を検討している、各学区の「まちづくり計画」の中で、総合計画における課題や方向性について共感できるかについて意見をいただく予定である。
- ・ 本日の会議を受け庁内の調整をして、みなさまにお話をいただく時間を設けた後、11月にパブリックコメントを実施し、市民のみなさまに総合計画についてのご意見をいただく。
- ・ パブリックコメントは約1か月の期間を設け、いただいた意見をもとに庁内での調整を行う。

その後、審議会を開催し、了解を経て市長からの諮問に対する答申をしていただく。

- ・ 答申を受けた後、議会への上程を諮り、3月議会で議決をいただけるように進める。3月末には総合計画を策定したということ、市民のみなさまへ報告するフォーラムを開催したいと考えている。
- ・ 年末年始に向けタイトなスケジュールとなっているが、よろしくお願ひしたい。

事務局：

- ・ スケジュールについて、ご不明な点があれば、後ほど事務局までお尋ねいただきたい。
- ・ 議事に移らせていただく。進行は、会長にお願ひする。

会長：

- ・ 今日は臨時の審議会であり、本来11月中旬に予定していた審議会があるが、今日の進み具合によれば、11月中旬の審議会は不要かもしれない。
- ・ 議事を進める。事務局に資料の説明をお願ひする。

3. 総合計画基本計画案の修正について

事務局：

（「資料2 基本計画案 アウトプットイメージ」「資料3 基本計画案 意見対応表」説明）

- ・ 追加資料1の意見書は、本日欠席の委員のご意見をまとめさせていただいたものである。これらの意見は資料2、資料3の修正に間に合っていないが、資料の右側にある「対応方針(案)」に書いているような対応としたい。
- ・ 図表などのデータは、パブリックコメントまでに最新のデータに更新させていただくので、あらかじめご了承願ひたい。
- ・ 指標については、今後実施を検討している評価の1つの基準になるもので、項目についての議論の後、担当部課にて数値を設定させていただくので、あらかじめご了承願ひいただきたい。
- ・ 部会に分かれてご意見いただき、庁内での検討を重ね、最終段階となってきた。誤字や文言修正を除いて、大きな修正がなければこの内容でもってパブリックコメントを実施したいと考えている。
- ・ 資料5に基本構想案と基本計画案の内容についての用語集を添付した。完成後の冊子の資料として添付する予定である。これに関してもご意見があれば頂戴したい。

会長：

- ・ 今までのご意見、庁内の議論にもとづき、修正をされたということである。ご質問、ご意見があれば何う。
- ・ 部会でのご意見については、かなり反映していただいたと思っている。先ほど、追加資料での修正点があったが、表現、言葉遣い、固有名詞などの記載の仕方については、まだ修正すべきところが出てくるかと思う。内容や方向性に関してご意見、ご指摘はないか。

委員：

- ・ 長期計画を策定する際には、「はじめに」で、今までと何を変えるのか、ということが明確に

なっていないといけない。将来に向かって何を変えていくのかということが歴然としないといけない。一番大事な部分が抜けているかと思う。

会長：

- ・ 基本構想案の話かと思うが、今までの歴史や伝統、経緯を踏まえてこれから先どのように近江八幡市を発展させ、よりよいものにしていくのか、何をどう変えていくのか、といった明確な方針や考え方がしっかり打ち出せていないというご意見をいただいた。

副会長：

- ・ ただ今のご指摘に関連して、基本構想案に本市を取り巻く社会経済環境について書かれているが、現在までの問題点は何で、足りないのはどこで、今後どうするかという書きぶりが、17 ページと 16 ページで違う。それぞれの課題について、近年の課題がこういう状況で、ここまでやれているが、次はここを目指します、というように、17 ページのような書き方に統一した方がよい。そうすることで、何のための計画かわかりやすくなると思うので、そこを修正してはどうか。
- ・ また、「はじめに」の「策定の背景」をもっとわかりやすくした方がいいのではないか。「旧市町の約束事・・・」という文章はよくわからない。これは市民にも分かりづらいと思う。

事務局：

- ・ 16 ページ、17 ページの書きぶりについては確認する。
- ・ 基本構想案は次の内容であるが、「はじめに」の背景には、そもそも総合計画を作るに至った経緯を書いている。ご存知の通り平成 22 年に合併をし、その前年に、新市基本計画を策定した。その新市基本計画は社会情勢の変化に合わせて変更をしてきており、そのまま最上位計画にできないか検討したが、新市基本計画を管轄する総務省に確認したところ、新市基本計画には旧市町の約束事という性質があり、抜本的な改革ができないとの回答を得た。そのため、新たに現状、社会情勢等に合わせた長期構想が必要であるということで、総合計画の策定に着手した。その経過についてかいつまんで書いた表現が朱書きのところである。
- ・ 以前は「新市基本計画は、計画期間の終了を迎えることになり」という表現であったが、計画期間は平成 36 年度までとなっているので計画そのものが終了するわけではなく、誤解を生むのではないかとということで修正した。
- ・ 朱書きの部分は、これが総合計画策定の一つの動機になったという説明になっている。

会長：

- ・ 話題が基本構想案にいつてしまったが、基本計画案の内容については、この後パブリックコメントなどで市民に意見を聞く案としては、こちらで問題ないか。文言の修正、誤字脱字等を含めた細かな修正はまだ出てくるかとは思いますが、内容や方向性が変わるような大きな修正はないということによろしいか。

(異議なし)

- ・ 本日特に、大きな修正に関するご意見はなかった。あくまで文言等の軽微修正のみになるかと思う。その修正を事務局でまとめていただき、後日各委員に送付し、報告という形でお示しするというご承を願います。
- ・ 基本計画案については、これで終了する。次の議事に移る。

4. 基本構想案の修正について

会長：

- ・ 事務局に説明をお願いします。

事務局：

（「資料4 基本構想案」説明）

- ・ 基本構想案については第2回の審議会で大枠での合意をいただき、それにもとづいて基本計画案を策定してきた。ただ、基本構想案について、見せ方や「将来都市像」については基本計画案を策定してから検討することになっていた。まだ、了承いただくに至っていないのが現状であり、基本構想案の修正の内容と併せてご説明する。こちら修正箇所を朱書きでお示ししている。
- ・ 資料4の最初に、基本構想と基本計画の構成図を記載している。基本構想はこれからのまちづくりに向けた目標と姿勢を示すものであり、施策ベースでの方向性を示すのが基本計画である。基本構想を考えていく過程として、まとめたのが次のページである。「本市を取り巻く社会経済環境」がある中で、これらから抽出した「これからのまちづくりに向けた課題」として横断的な課題が4つある。その横断的な課題に対応するために、6本の「基本目標」をお示ししている。これは分野別に分かれた方向性である。この基本目標に取り組むにあたっては、このような姿勢で臨もうというのが「基本姿勢」である。基本姿勢の大きな柱としては「持続可能なまちづくり」ができるようにということで、「内発的発展によるまちづくり」と「協働・連携による自律的なまちづくり」を基本的な姿勢としている。それらを達成することで10年後、近江八幡市として、こういう状態でありたいというものを「将来都市像」としてお示ししている。これは、この後ご説明するが、「人がつながり 美しいふるさとを受けつぐまち」を提案する。
- ・ （基本構想案の修正箇所について説明）

会長：

- ・ 基本構想案についても追加修正が何カ所もあり、「将来都市像」の表現については、できれば確定をしたいと考えている。
- ・ 「将来都市像」については後ほど改めて伺うが、まずは、基本構想案全体に対して質問などがあれば伺う。

委員：

- ・ 29ページのSWOT分析に違和感がある。社会環境と環境についてはしっかり書かれているが、経済に関する観点が欠けているのではないか。
- ・ 将来のまちづくりを考える時に、これから人が少なくなるということは良く分かる。人が少

なくなると、今のような財政基盤がなくなるといいますが、それに対して経済面ではどうしていくのかという点がどこに書かれているのか。

- SDGs の産業振興のところでは、経済関連のことが項目にあがっているが、SWOT 分析にはない。人口減少がもたらす生産年齢人口の減少といった部分を補完していかないと、将来に向けたまちづくりは絵空事で終わりそうな気がする。
- 美しいふるさとを受けつぐや、人がつながるといことも大事であるが、循環していくために欠かせない一番肝心な部分に関して、もう少し SWOT 分析の表に言葉として落とし込めないか。

事務局：

- 少しは書かせていただいているが、ご指摘のとおりかと思う。29 ページの SWOT 分析から「これからのまちづくりに向けた課題」への流れの中で、その辺りが見えてこないというご指摘かと感じている。基本構想案として積み上げてきたものの中にはそうした観点も含まれてはいるかと思う。書きぶりで調整をするというわけではないが、追記の可否を含めて検討する。

委員：

- 将来の都市像に違和感がある。近江八幡の都市像とはどういうことなのか。ここは将来の「社会像」ではだめなのか。都市もそうだが社会像がふさわしいのではないのか。

事務局：

- ここは定型的な部分でもあり「将来都市像」として書いている。あくまで、本市が目指すという部分であるので都市像としている。「将来社会像」といった表現を使われている市町は少ないと思うが、他の審議委員はどのように思われるかお伺いしたい。

会長：

- 委員のご指摘としては、29 ページの SWOT 分析で挙げられている項目に経済的観点が抜けているということである。そう思うと、脅威、弱みに切迫感がなく現実逃避したかのような内容になっているようにも思える。分析結果が大きく変わるものではないと思うが、何を「弱み」として捉えているか、何を「脅威」として捉えているかというのは、現状認識として非常に重要である。こうした表に落とした時に、抜けているとその問題を認識していないのではないかというような誤解を生んでしまうので、そこを検討していただくと良い。
- 「都市像」について委員のみなさんのご見解はどうか。

委員：

- どちらでも良い。テイストの問題である。「都市像」とすると、「社会」が都市の後ろにあるように思う。社会の現状認識をどうするかということは、都市の現状認識というよりも先にあるのではないか。

会長：

- この基本構想案の考え方としては、グローバル・日本・地域、色んな意味での社会の状況が

あり、その大きな社会状況の中で、近江八幡市というこのまちをどういう姿にするかということであり、「都市像」は絞り込んだものという認識である。ご指摘の通り背景、前提として社会像がある。将来の社会がどうなるかということ踏まえて、近江八幡市というまちがどうするかという関係だと考えている。そういった意味でこの部分は「都市像」でよいと考えている。

副会長：

- ・ お二人の委員の意見はもともとだと思う。
- ・ 29 ページの SWOT 分析については、表だけでなく、下の課題にも経済観点が薄い。そう思って改めて読み直すと、経済も財政も厳しい中でなんとかやりくりしていきましょうという、受け身な感じがでてきているように思う。課題のところにも経済の観点を取り入れた方が良くもしい。
- ・ 将来都市像については、基本構想案のこの前段まではずっと「まちづくり」だったのに、ここだけ「都市」になっている。用語としてここまで「まちづくり」を使ってきたのであれば、「将来のまちの姿」でもいいのではないか。

副会長：

- ・ 基本構想案の「はじめに」の前ページの図を見ると、「取り巻く社会経済環境」の部分で経済環境と社会像の向くべき方向性が書かれており、その下に「まちづくりに向けた課題」が書かれているが、「財政」という言葉があまり書かれてない。目次で言うと、Ⅱ章の(3)本市の現状の中で財政がひっ迫しているという話がある。
- ・ 29ページの表を埋めようとするとう無理があると思う。前段の「本市を取り巻く社会経済環境」を、社会経済環境の実態というよりは、社会経済環境とそれに対する方向性といった書き方にして、ここに経済の観点をしっかり入れてはどうか。現状では、「本市を取り巻く社会経済環境」の章と後ろの SWOT 分析や課題の部分がつながっていないので、社会経済環境に対する方向性をページ数に余裕のある「本市を取り巻く社会経済環境」のところでしっかり書いておいた方がよい。一つにまとめようとするとなかなか難しい。

会長：

- ・ 29 ページの SWOT 分析についてご意見をいただいた。SWOT 分析の表を変えるのは簡単に対応できるが、その後の4つの課題に手を入れると様々なところに影響がでてくる。その課題を説明する部分でなら、もう少し工夫はできるかもしれない。
- ・ 「(2) 公共施設・社会基盤の老朽化への対応」は課題というよりもかなり具体的なやるべき課題が表現されている。なぜそれが必要なのかという説明がその下に2行書かれてはいるが、ここに経済の状況や財政の事を書くことで、課題認識として、どのようなことを自分たちが考えているのかをはっきりしても良いのではないか。
- ・ SWOT 分析に多くの要素を網羅的に書くのは不可能なので、これをどう整理するかである。大雑把なものを書くか、具体的なものに変えていくかということだが、「強み」にはかなり具体的なもの、例えば「近江牛」「近江米」があるが、「脅威」は大きな社会のトレンドである。どのレベルで書くかは難しいが、検討いただきたい。

- ・ 副会長の指摘通り、14～16 ページの辺りで、できるだけ現状認識がどうであるかということについて加筆することで市の認識をしっかりと示す工夫、努力をすることは必要だと思う。
- ・ 将来都市像については、副会長から指摘があったように、「都市」という単語はそれまでの議論であまり使われておらず、唐突感がある。従来から基本構想には「都市像」という言葉はよく使われてきたが、そこに縛られなくてもいいかと思う。「将来のまちの姿」といったやわらかい表現に変えても、中身がそれによって変わるという事ではないと思う。「まち」で統一するというのも一つである。「都市」を「地方公共団体」と同じくらいのイメージで考えて使っていると思うので、「まち」に変えるのは行政的には違和感があるかもしれない。

委員：

- ・ これは何か策定のフォーマットがあるのか。

事務局：

- ・ 特にあるわけではない。

委員：

- ・ 「将来のまちの姿」は素晴らしいと思う。

会長：

- ・ 基本構想は近江八幡市が独自で作るものであり、表記にルールがあるわけではないので縛られる必要はない。

委員：

- ・ これは近江八幡市の将来に向けたコンセプトということかと思う。「都市」という言葉はいらなく感じる。近江八幡市がどういう形になりたいか分かればよいと思うので、「将来の都市像」ではなく「将来の近江八幡市」にしてもいいのではないか。ここには「近江八幡市」という言葉が必要だと感じる。

会長：

- ・ 「近江八幡市の姿」と「近江八幡」という言葉を入れてはどうかという意見をいただいた。

委員：

- ・ 「都市」と書くと「都市」に何か価値観があるようなイメージにも取れるので「都市」は使わない方がいいのではないか。「都市」というと都会のようなイメージで、「にぎやか」であるとか「繁栄しているもの」が良いというイメージを市民に持たせるのではないか。「都市」というと過去の成長戦略に繋がるイメージになるので、「都市」ではない方がいいと思う。都市と農村という対極もイメージさせる。

委員：

- ・ 現実には「将来の都市づくり」といった議論はしていない。やはり「まちづくり」がぴった

りする。

委員：

- ・ 非常に細かなことだが、追加資料で、「障がいの有無を問わず」という表現を「有無にかかわらず」に改められるということであれば、29 ページ課題（4）の「障がいの有無を問わず」も、「有無にかかわらず」になる。それに連動して、33 ページの4行目では漢字で「関わらず」となっているので、この辺りは統一される必要がある。
- ・ 全体的に、29 ページの課題の整理では、人口減少に大きな問題の根っこがあり、そこは一つの市では太刀打ちできない大きな課題だという認識に立っておられるような表現が繰り返されてくる。例えば、課題の（4）でも「人口が減少していくなか」という表現があるが、果たしてこの3行しかない文章の中で書く必要があるのか。30 ページ以降を読むと意味が分かるが、抜粋してどこかに焦点を当てるといふ際には大きな問題よりも、本当に向き合わないといけない課題に焦点を当てた方がよいように思う。
- ・ 第1部会で、子育て支援の議論を随分重ねてきたが、その部分のこれからのまちづくりの姿や子どもが育つ環境として近江八幡市がどういう姿を目指していくかが、見えてこないのは残念である。

会長：

- ・ 29 ページの課題の書き方でご意見をいただいた。課題の（1）に「少子高齢化・人口減少社会」が出てきて、それ以降の課題にも人口減少はすべて絡んでくる。全体的なものとはそこから派生してくるものとして、レベル感が違う課題が並列されている感じがある。書きぶりを工夫した方がよいという意見はもつともである。
- ・ 「将来都市像」という見出しも含めて「都市」については、「まち」でよろしいか。

委員：

- ・ その「まち」も平仮名がよい。

会長

- ・ それでは、「将来都市像」は「将来のまちの姿」とする。
- ・ そのまちの姿として「人がつながり 美しいふるさとを受けつぐまち」という案が出ている。これは以前の審議会でも議論をいただき、その結果を庁内で検討していただきこの案にまとまったが、これについてのご意見をお伺いしたい。

会長：

- ・ 様々な意見を集約した結果として作成されたものと思うが、ものすごく平凡である。様々な意見を総合するとこうしたものにしか落ち着かないということもあると思う。尖がったこと、特徴的なものを入れると魅力的にはなるが、それに関する違和感や反対意見もでてくるので難しいところである。

委員：

- ・ 「人がつながる」は大事だが、人とつながるには、ある程度個人の情報を開示しないと難しいことがよくある。例えば、私は自治会の中では、ある程度近隣の方の家の情報がわかることで安心感があり、つながっているのではないかと思う。うわべだけで「つながる」といっても難しい。どういうつながりなのか、お互いの開示が大事であるということが、表現できるとよいかと思う。
- ・ SWOT 分析の課題と認識のところであるが、分析結果で解決方法がみつかってない、というように受け取れる。そこでは「自助・公助・共助」の中でも、「自助」が重要になるかと思う。様々なことを自分たちの責任にしないと待っていては解決できない、というキーワードが求められるのではないか。

会長：

- ・ 「つながり」は聞き心地の良いことばで表面的に使いがちであるが、どんなつながりがあるのか、基礎となるのは何かというのはご指摘のとおりだと思う。これを表現の中に上手く入れられる言葉があれば是非入れたいと思うが何かないか。
- ・ どういうつながりであるかは、上段のコンセプトのところでは、それなりに書かれているかと思う。

副会長：

- ・ コンセプトが少しわかりにくいところがある。29 ページの課題の説明のところにはそれが求められる。課題からコンセプトの言葉が抽出され、そのコンセプトが将来の姿、課題の解決につながる、というように、うまく説明ができればよいかと思う。「美しいふるさと」についても同様で、美しいふるさとが必要であるということが、4つの課題の中で説明するというとはなくても、それがイメージできるようなことが書かれていると理解しやすい。

会長：

- ・ コンセプトとして重要な概念として、「人のつながり」を意識しているが、「つながり」は34 ページではクローズアップされるが、それ以外では「つながり」ということが課題認識などにおいてもあまり出てこない。そこはキーコンセプトであるので、他の部分にも意識して書き込む必要があるかと思う。
- ・ 考え方として、人のつながりで何か課題を解決していくとか、この課題に対応するためには市民が協力してつながりを持って信頼関係で対応しないとうまくいかないとか、そういった意味でのつながりが大事だという認識が、様々な課題の所でも少し触れられると良いように思う。
- ・ 「美しいふるさと」の「美しい」だが、自然環境や、伝統・文化の「美しい」については書いてあるが、「人のつながり」という意味での「美しい」は、ソーシャルキャピタルであり、そういったものがある社会がここでいう「美しい」だと思う。目で見ることができ「美しさ」、「住んで感じられる美しさ」があるので、上段のコンセプトでそういったことを説明する必要があるかと思う。ただし、精神論のようにならないような工夫、配慮は必要かと思う。

副会長：

- ・ 情報開示は人がつながるのに必要だというのは面白い視点だと思って聞いていた。34 ページ (1) の後段、「年齢や性別・・・」という文章で、ここでは違いを超えてと書かれているが、その超え方として、組織のマネジメントの共有化や交流促進を推進して開かれた社会を構築して、「人と人とのつながり」を大切にするといったことを書いていくと良いのではないかな。

会長：

- ・ 大変具体的なアイデアをいただいた。そうすると、先ほどのご意見の情報開示ということも盛り込めると思うので、表現を工夫していただきたい。

副会長：

- ・ 「開かれた社会」というのは良い言葉。

会長：

- ・ 「開かれた社会」を1つキーワードとしていただきたい。
- ・ 「人がつながり 美しいふるさとを受けつぐまち」という文言の表現はいかがか。

委員：

- ・ 乱暴な言い方になるが、基本目標は「よし！」という感じがするが、この「人がつながり 美しいふるさとを受けつぐまち」では「よし！」という感じがしない。「次の世代が地域に愛着と誇りを持てるよう引き継いでいきます」の辺りは見えて「よっしゃー！！」と思う。
- ・ これを見て、みんなが響くような、近江八幡を作っていこうと思えるようなものがよい。

委員：

- ・ 「人がつながり 美しいふるさとを受けつぐまち」というのは反対の言葉と一対だと思う。「つながりのないまち」はどうなのか、「美しいふるさと」を失うとどうなのか、と考えるとこれは意味のある言葉になるが、これだけを受け取るとわからない。

委員：

- ・ 先ほど申し上げた「自助」ということ。自ら動く、参加する姿勢が見えるキャッチフレーズが良いと思う。「人がつながり」よりも「自ら動いてつながる」というような、能動的なイメージが少し入ると違うと思うがどうか。

会長：

- ・ 今の案だと「受けつぐ」にはやるべきことが示されているが、それ以外は状況で、行動が書かれてないので、何か目標を持ってここへ進もうというメッセージに聞こえない、見えないということかと思う。
- ・ これを見て、近江八幡市を将来こうするために「自分はどうしなければ」といったようなメッセージが引き出せるかというそれは厳しい。現状は、全部読めばわかりますよといった感じである。
- ・ ここをこう変えれば良いという、別の案は思いつかないところであるが、先ほど「自助」と

言われた、一人一人が行動することを入れることで、市民に対するメッセージ性がでてくるのではないかと。

委員：

- ・ 例えば「人が」ではなく、「人と」とすることで、少しニュアンスを変えられないか。

会長：

- ・ 最初を「人とつながり」とすることで、主語を感じさせる。それが市民一人ひとりであるということ。主語があることは主体性も表現ができる。主語を書かずに感じさせるという日本語独特の手法である。

委員：

- ・ 最初の時にも話をしたと思うが、「受けつぐ」という言葉に違和感がある。さんざん切実な課題が並べられた後に何を受け継ぐのか。今お話しされていた「主体性」が感じられないので、「ひらく」や「つくる」といった能動的なキーワードで、将来世代の市民が「よっしゃ、我が事」となってくれるように火をつけていこうと思うと、「美しいふるさと」も的確ではないし、「受けつぐ」と言われてもいまいちである。
- ・ これでは、つながらないとできない、と読めてしまう。つながるのは大事だけれども、どう掛けていくかが大事である。
- ・ 「受けつぐ」を別の言葉にできるか考えたい。

委員：

- ・ 「美しい」はいらなと思う。これが邪魔しているのではないかと。

会長：

- ・ 「美しい」がいらなという意見、「受けつぐ」というのがいらなという意見が出た。私も初めて見たときに「受けつぐ」に違和感があった。過去はどうでもよいということではないし、引き継いでいくこと、未来に伝えることはあるが、将来のことを考えた時にはそこにプラスした何かがある方がよい。

副会長：

- ・ 先ほどの「ひらく」にするとすれば、開拓の拓の「拓く」がいいのではないかと。

副会長：

- ・ 「紡ぐ（つむぐ）」はどうか。糸で人のネットワークのようなイメージもある。

会長：

- ・ いかがかと。

委員：

- ・ これは議論すればするほど、魅力はなくなってくるのでお任せしてはどうか。

会長：

- ・ これまでにいただいた意見を踏まえて、「人がつながり」よりは「人とつながり」の方が主語が出てきてよいのではないか、「受けつぐ」よりもう少し能動的に、新しいまちをつくるのだというようなところを表現するために「拓く」や「紡ぐ」といった言葉が良いのではないかという意見が出た。今までのものを引き受けながら、かつ新しいものをつくる、といったニュアンスを表現できるような言葉を考えるということで、考え方としてはよろしいか。
- ・ 具体的にどの単語を入れるかについては、人それぞれ好みや言葉遣いの特徴もあり難しくなると思うので、今ここでこれにしましょうと言うことはできない。しかし、もう一度会議をしても同じような話が展開される懸念があるので、今回出た意見に基づいて、あとは事務局案にお任せするというところでどうか。

事務局：

- ・ 事務局の中でも議論は尽きず、なかなか結論がでない。「受けつぐ」の部分で尖った表現にできれば、すばらしい表現になるのではないかと思うが、これ以上のアイデアが出なかったため、みなさんのご意見を聞いた、というのが本音である。
- ・ 方向性に関してはいただいたとおり、もう少し未来へのメッセージで、受動的でなく能動的に自らが参加する姿勢を盛り込んでいきたいというのは承知した。
- ・ こちらで複数案出すので、委員のみなさまのインスピレーションによって人気投票という形で意見を集約できればと思う。その上で、みなさまにフィードバックしたいと考えるがいかか。

事務局：

- ・ 今日の意見をそのままの表現で採用させていただくかどうかはお時間をいただいて考える。良いアイデアがあれば、今週か来週にはいただきたい。フィードバックについては、いつとは明確にいけないが、早いうちにご提示させていただきたい。
- ・ パブリックコメントは11月中旬を予定して進めたいと考えているので、10月の最終週にはこの方向で出すというのを決めたいと事務局では考えている。

会長：

- ・ 基本として「つながり」という概念は残す。「ふるさと」は、「美しい」をつけるかは置いて、キーワードとしては残しておくと思う。あとは「て・に・を・は」の検討。「うけつぐ」が弱いので、他の単語に置き換える。候補としては「拓く」「紡ぐ」あたりである。その範囲内で複数案考えていただく。
- ・ こういった会議で話してもまとまらないので、会議でなくてもよいか。

事務局：

- ・ 会議でなくてよいとかがえるが、みなさまのご意見を伺いたい。

会長：

- ・ 今回は案ができたなら、投票による多数決で委員のみなさんの支持の多かったものを、採用する。パブリックコメントで市民から非常に良いアイデア、表現や言葉遣いがでてきたら検討に値すると思うが、パブリックコメントでそこまで踏み込むような意見が出ることはあまりないと思われる。個人レベルの好みが出はじめるときりがないので、おそらくパブリックコメントでは対応できないと思うが、その辺りを含めてもう少し考えていくことにしたい。
- ・ 大きな変更点としては「都市像」という言葉遣いを「まちの姿」とし、「将来のまちの姿」というような柔らかい表現、かつまちづくり等で一般的に使われている言葉に合わせるということである。
- ・ 課題の整理についてご意見をいただいた。考え方や課題の中身自体を変えるのではなく、整理の仕方や基本前提についての説明の部分を少し手直し、加筆する。基本的な考えや方向性に関する意見は特になかったため、事務局で修正をいただき、その案については、事務局と会長の一任で決めても問題ないか。

(異議なし)

会長：

- ・ パブリックコメントを実施した後、またこの場で議論をするので、もし問題点があればそこで修正ということにしたい。
- ・ 当初予定していた11月中旬の委員会（第6回の審議会）は開催しないものとする。
- ・ 予定していた議題は以上であるので、進行を事務局にお返す。

5. その他

事務局：

- ・ 大変長時間にわたり、ご審議いただき御礼申し上げます。また、貴重なご意見、キーワードを賜り、お礼申し上げます。

「将来のまちの姿」について、事務局で再考させていただき、早急に委員のみなさんに投票を賜りたいと考えている。また、何か気づいた点があれば事務局までご連絡いただきたい。

以上